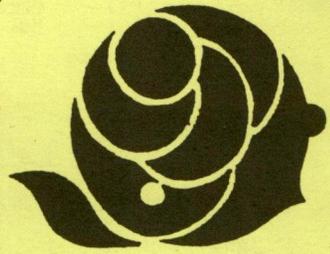


Rosa Pumula

ローザ・プルムラ



●茨城大学・大学教育研究開発センター

ニュースレター No.13

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 巻頭言 | 1 |
| 私たちが改革します！ —新センター長就任— | 1 |
| これからの教養教育は？ —FD研修会を終えて— | 3 |
| キャンパス情報 | 4 |
| 大学生活に慣れた？慣れない？ —入学して思ったこと— | 6 |
| Voice —初めての試験， 私のアドバイス— | 7 |
| 教養教育古今東西 | 9 |
| 掲示板コーナー | 10 |

(平成11年7月発行)

今私達の周りは、新緑から初夏へと移り変わり、眩しいばかりの日の光の輝きが目にしみる季節となっています。

日本語には目(眼)にまつわる言葉が多くあります。例えば「目は口ほどに物を言う」、「目は心の鏡」などは目を通して人の心の状態が表されることを表現している言葉ですし、「眼光鋭い」とか「眼光紙背に徹する」などは眼の輝きが人の能力を示すことの表現であります。今から20年以上も前になります。が、「君の瞳は百万ボルト」と言う題名の歌がヒットしました。この曲は日本で第1号のTVコマーシャルソングとして登場した歌のようですが、人の目の表現力を示すのにこのような言い方もあるのかと驚いたものでした。この春、新入学生の諸君と初めて教室で目を合わせた時、たくさんの目から発せられる光に強い力を感じ取ることができました。きっと、これから始まる大学生活への希望と期待に満ちた心から発せられる眼光であつたと思います。

今社会は21世紀を目前にして、その価値感が大きく揺れ動いています。自分たちは何を学び、社会に出て何をなすべきかをこの大学生活の中で常に考え続けて貰いたいと思っています。本誌が発行される頃は、夏休みも近く、新入生の諸君は大学生として初めての長期休暇であり、いろいろ計画を練っているのではないかと思います。一年前、受験準備に明け暮れた夏とは異なり、心にゆとりを持って社会を見る絶好の機会でもあります。夏休みの計画の中に多くの知的社会行動に関わるプログラムを入れ、目を肥やしてみたらどうでしょうか。(高原)

私たちが改革します！ — 新センター長就任 —

「教養教育と専門教育との有機的連携」を一步すすめたい！

茨城大学大学教育研究開発センター長
田村 武夫

5月から大学教育研究開発センター長に就任しました。

大学教育研究開発センターは、実際の機能からすると本学における教養教育の計画・実施組織といえます。卒業単位数に占める割合からみると学部比に比して比重は小さいとよくいわれるが、昨今の「21世紀の大学像」論議をまつまでもなく今後はその役割がきわめて重要かつ大きなものになると考えています。

周知のとおり、こんにちの大学は、多くの社会人・留学生を迎え入れ、そしてなによりも高校教育の「広範な選好による授業科目選択制」により学生の学習経験・授業観・指向などに「多様化」現象が起こっており、はたまた、18才人口減による入り口チェックの緩和、他方で出口チェックの厳格さの要請など、学内外

の環境変化への対応にも一汗も二汗もかかなくてはならない実情にあります。4～5年先に独立行政法人化に移行していく可能性も高くなっており、「大学サバイバル策」「大学活性策」のdevelopmentはまったなしといえます。

4年間の学生教育の目標を再確定して、その目標達成のための役割分担として自学部の専門教育のみならず他学部の教育資源も、さらにセンターの教養教育も位置づける構想、いわれるところの「教養教育と専門教育との有機的連携」こそが鍵であります。連携の創造的、効率的な内実づくりにむけて、各学部のイニシアティブを尊重しながら本学ならではの大学教育改革をすすめていきたいと願っております。

就 任 に 際 し て

大学教育研究開発センター

副センター長 服部 恒明

大学というところは、学生が主役であるといつも思っている。当たり前のことであるが、大学の管理や運営は、直接的には文部省による基本方針に基づいて事務官や教官によって行われている。また大学は研究機関としての役割も担っており、知的遺産の発展と継承は、大学における重要な機能である。研究は、教官を中心にすすめられる。このとき教官の「研究者」としての顔が現れる。そこで大学における実質的な主役は事務官や教官であるように教官側も学生側も錯覚がちである。かつて大学に紛争があったときに求められた反省は、次第に色褪せて、キャンパスに映る学生の影は今こころなしに薄く感じられる。大学教育に対する自己点検評価の試みは、「学生からのアンケート」などによって、毎年型どおりになされている。しかし

それはまさに「型どおり」であって「誰のために」「何のために」という視点が見え難いことも少なくない。従来実施されたアンケートの結果を外観すると、学生が大学に対して期待していることは「University」への期待であると読み取れる。世の中の仕組みの中の「歯車」としての「専門」が、「全体システム」とどう関わるのかについて展望したいという想いであろう。教養教育の役割は、この困難ではあるが重要な問題を解くためにあるといっても過言ではないだろう。開発センターの一員として、もしやれることがあるとするならば、少しでも学生の立場にたつてものを云うことであるだろう。「何が学生のためなのか」は、「一概には言えない」という「研究者」の詭弁が聞こえてきそうである。最も大事なことは学生自身が「自分たちが主役である」という確信を抱くことである。そして同時に舞台の真中で「主役として」演技しなければならない。

前 途 茫 々

大学教育研究開発センター

副センター長 山中 一雄

副センター長（研究開発部長）の任期半ばにしてセンター長に就任なさった田村教授の身代わりとして、副センター長の残任期間を全うする役目を私がおおせつかりました。未熟者ゆえよろしくご指導願います。

一般教育と専門教育を分けていた課程区分を解消してから5年、現行の4年一貫教育を全学的に導入してから3年が経過した今、この間蓄積された資料や経験をもとに新たな教育改革論議が現在進行しており、当センターにも改革にむけて応分の役割が期待されているようです。すでにさまざまな議論が行われてきているとはいえ、議論の余地は依然として大きく、その行方は茫々として見当もつきません。

私もおよばずながら思考していたら、分らないことがたくさん出てきました。教養部を解散したことと、曾て教養部が担っていた一般教育を事実上存続していることとは相矛盾しないのだろうか？学生が自分の専攻と異なる分野の専門知識を齎るとどのような教養が身につくのだろうか？教養教育と専門教育の融合という表現には、それらを互いの相補概念とする前提が見て

とれるが、大学教育から教養を取り去った残りが専門ということなのだろうか？等等。書きはじめたらきりがありません。

さしあたり、これらの疑問を解消するところからはじめたいと考えているところですが、愚考ついでに、「教養がある」ことの究極の姿を私なりに想像してみました。それは、これまでに人類が獲得した全ての知識を保有し、なおかつそれらの知識が合理的に体系化されている状態ではなかろうかと思えます。現実にはこれは不可能なので、「全ての」というところを放棄して知識を適当に限定せざるを得ません。この限定された知識は開放的に体系化されなければならず、そのことを念頭においた知識の選択が重要になります。これこそが、4年一貫教育の意味ではないかと思えます。誰がそれをやるのかということについては、現在の大学の組織とその運営形態を前提とするなら、知識の選択と教授に関する責任を各学科におき、全学的協力体制をもってこれを補うのが最善のように思えます。

浅学を顧みず分ったような物言いをしましたが、これからはじまる本格的な議論のなかで、与えられた役目を果たして行きたいと考えています。いろいろご教示いただければ幸いです。

これからの教養教育は？ — F D研修会を終えて —

大学改革，教養教育について共通理解深まる！

— 第1回教養教育F D研修会報告 —

今年(1999)3月8～9日霞ヶ浦湖畔の国民宿舎「水郷」で第1回教養教育F D研修会が催された。

茨城大学におけるはじめての全学的なF D (Faculty Development) 研修会は，参加者48名の教・職員に様々な印象をあたえたようであるが—参加者アンケートによる—，「今後の教養教育はどうであるべきか」という点についてはほぼ共通のイメージあるいは問題認識をもたれたようにみうけられる。それへのインパクトはとくに，広島大学の総合科学部長・生和秀敏教授の記念講演—「広島大学における教養教育改革とF Dの試み」—が，いま大学の生き残りのために何をしているか，何をなさねばならないか，という視角から大学改革のひとつのすさまじい実情を示し，重たい提起をされたことにあるように思える。「広島大学型の改革は，茨城大学では無理。モデルにならない」との感想もだされているが，「大学改革は目的意識的に構造化し，方向性をはっきりすることである」「教養的教育を踏まえた学部教育，さらには大学院教育の見直しおよび充実」「教養的教育の改革と充実がなされなければ，いかに壮大にして細密な学部，大学院の改革を計画立案しても，いまや誰もどこも相手にしてくれないことを肝に銘ずべき」との説示は，多くの人に印象的だったようである。

宮田学長の講話のひとつの論点である「茨城大学の総合力という特徴を活性化すべき」という説示も本学の教養教育および学部教育の改革方向について改めて考えさせる契機をもつものであった。

F Dの適切な訳語がないのでとりあえず「教授（専門）集団の資質向上」と表示しておくが，その狙いは，特定課題についての共通理解・共通認識を目的意識的に促し専門集団の連帯と共同を形成する，ということである。S D (Staff Development) 研修とともにF D 研修の成否が大学組織体の今後の命運を左右すること

は間違いのないであろう。なぜなら，大学にあってはとりわけ意識改革が必要とされているからである。

F D研修のもち方は多様であって泊り込みの「研修会」が唯一ではない。関係部局で集まりやすい効率的な実施形態が当然に図られてよい。今回のF D研修会については，場所・時間不足・討論の焦点不明・分科会の人数過剰などの批判がだされている。

しかし，普段互いに話をする機会のない他学部教員との議論，それをとおして予想外の考えを知ることができたことは，相互理解の一步であり，共通の土俵づくりにむけての貴重な布石となるものである。茨城大学の構成員であり，教育研究の同僚・担い手であるとの相互信頼を築いていくことから，改革にとってもっとも重要な学内意志の共通形成がもたらされるのである。「知らない先生と話ができたことがよかった」と，参加者の多くが異口同音に評価している点がF D研修会の成果といつてよいであろう。

今年度は，日立市ないし周辺で開催する予定である。しっかりした企画のもとにより充実した研修会を期したい。

大学教育研究開発センター・前年度研究開発部長

(第1回F D研修会実施責任者) 田村 武夫

キャンパス情報

人文学部から

この原稿を書いている日（5月11日）は、前日までとは異なりとても肌寒く、雨降りのためかこれから冬へと向かう季節を思い出しました。新入生の皆さんが入学以来の疲労で体調を崩す時期と天候の不順が重なってしまったようです。健康に十分注意して下さい。

人文学部での前期試験は7月21日からです。高校とは違う大学での授業形式や内容、慣れない間にもう試験かといった感じだと思われます。でも高校生のころ

よりも時間には余裕があるでしょうから、その使い方さえ間違わなければ試験は恐るるにたらずです。とはいえ、最初の試験ですから不安があるのは仕方のないことと考えます。そこで、試験のノウ・ハウを若干示しておきます。

講義のあったその日の内に、ノートを見て講義内容を思い出し復習すること。頭の中でその日の講義を整理し全体像を描き、これを簡素にメモしておく。こうした作業は、せいぜい15分程度で可能だと思われるので実行してみてください。（梅田）

教育学部から

— 教育学部の新入生の皆さんへ —

ゴールデンウィークが終わり、大学生活にも少し慣れてきたことと思います。教育学部は、昨年の教員免許法の改正と学部の改組のために、他の学部に先駆けていわゆる課程認定を新たに受け直し、今年度からカリキュラムを大幅に変えました。そのため、卒業に関するさまざまな条件などが、上級生の場合とかなり異なっています。必修の授業や教員免許の取り方などが先輩たちと違いますので、彼らの助言などを鵜呑みにしないで、疑問点は学務係や教務委員の先生などに尋ねて下さい。

もう一つ皆さんにぜひ伝えたいことがあります。それは、皆さんはまだ知らないでしょうが、我が教育学部には研究面でも教育面でも優れた先生が大勢いらっしゃるということです。私がかつていたごく狭い範囲

でも、研究面では、たとえば、理科や科学を学ぶことの意味や価値について研究をされ、国際的な共同研究やシンポジウムにも数多く参加されているO先生、菌学と植物病理学が専門で外国の専門雑誌に多くの論文を書かれているO先生、ドイツ教育哲学の権威でドイツの専門雑誌の編集委員になられているT先生、近代日本美術教育史に関して高く評価されている大部の著書を書かれたK先生などなど、枚挙にいとまがありません。また、教育面でも優れた授業をされている先生がおられます。自分の興味のある分野ではどなたが優れた先生か、先輩や他の先生に伺ってもいいですし、自分で見つけるのもいいでしょう。

大学生活が有意義なものになるかどうかは、そのような素晴らしい先生を見出せるかどうかにか大きく依っていると、自分の個人的な経験に基づいて、私は確信しています。教育学部だけでなく、茨城大学全体に目を向け、さらには他の大学にも目を向けて、探してみてください。（竝木）

理学部から

— 基礎学力の充実を —

前期試験を目前に控え勉学の時間も多くなっていることと思います。理学部は今年から専門基礎科目の単

位数を10単位に減らしましたが、これは決して基礎科目を軽く見たわけではありません。むしろ教養科目の分野別自然の科目と連動して基礎学力を充実させ専門科目の勉学に備えようとするものです。

最近の学問の発展は目覚ましく、総合化、学際化の方向に進み幅広い分野の知識が必要になってきていま

す。それに合わせ理学部も3学科に編成されすでに4年を過ぎました。しかし、最近の新入生は高校で理科を2科目しか履修してこない学生が増えてきました。理学部の専門科目を履修するためには理科4科目の最低限の知識は必要となります。今年は特に一部の科目で高校での未履修者を対象にした講義も用意しました。

工学部から

『1年次学生』の皆さんは、入学式当日の慌ただしい履修ガイダンスと大混雑の申告手続きを経て、早くも3ヶ月が過ぎました。今度は前期試験です。正しい試験に堂々と立ち向かって下さい。くれぐれも、不正もどきの行為などによって、周囲の人たちに思いもかけぬ重大な迷惑をかける事の無い様に心得て下さい。来春から予定通り、日立キャンパス専門系に移れる様に祈っております。

『情報関連科目』2単位は教養の必修科目です。コンピューター関連のこの科目が1～2年次に組まれて

来年度はそのような講義ももっと増えるでしょう。特に1, 2年生の間に得意な分野の科目だけ履修するのではなく数学はもちろん理科4科目をバランスよく履修して基礎学力を充実させ専門科目の履修に備えるようにしてください。(三輪)

います。この4月から日立地区を本部としてスタートした「茨城大学総合情報処理センター」を核にその機能が拡充強化され、一段と良い環境での情報関連教育が実現される様になりました。これらの施設を活用し、大いにパソコン実力をつけて専門課程に進んで下さい。

『多賀工業会館』という小さな建屋が日立キャンパス南東の角にあります。ここに工学部卒業生の同窓会「多賀工業会」の本部事務室があります。1年次の皆さんには入学時に会費納入の上、「準会員」として入金して頂きました。同会のホームページが仮設置されていますので覗いてみて下さい。

(<http://www-tag.a.admt.ibaraki.ac.jp>)

(市村)

農学部から

このニュースレターが出る頃はもう前期の終盤で、毎日暑さと眠さとの闘いになっていることでしょう。

この時期(6月から)、国や県の公務員試験が行われるので、農学部では4年次生や大学院(修士課程)2年次生の多くがこれに挑戦してがんばっています。公務員試験の内容は教養と専門に分けられ、どちらかといえば教養試験の結果によって合否が左右される傾向があると聞きます。ペーパーテストで本当の教養が分かるかどうかには大いに疑問もありますが、直前になってあわててもダメなことだけは確かなようです。

ところで、就職のことを考えるにはまだ時間があると思っている学生にとっては、時間とエネルギーのある今が、自分の可能性に挑戦し、新しい自分を発見してみる好機ではないでしょうか?人から与えられたものではない何かを、自ら工夫して獲得していくことが、将来の自分を創るために必要だからです。

さて、農学部の新しいグラウンドがこの春からやっと使えるようになりました。たぶん8年ぶりです。周囲にネットが張られたので、今度は思い切りボールを蹴っても大丈夫です。

期末試験が終わる7月末には、今年もこのキャンパスで生協主催のビアパーティが開かれることでしょう。そして、8月上旬の週末には、恒例の阿見町を挙げての祭り「まい・あみ・まつり」が農学部前の通りを歩行者天国にして盛大に行われます。(軽部)



大学生活に慣れた？慣れない？ — 入学して思ったこと —

岩田 真実子（人文学部 1年）

大学に入学して1ヵ月以上が過ぎました。私は茨城出身なので、大学には知人も何人も入学しましたが、学科は知らない人ばかりで、入学式はとても心細く不安でした。でも、すぐに友達もでき、どんどんその輪は広がっています。高校と違い、大学には全国から人が集まってくるので、おもしろい方言を使う子がいたり、とても楽しいです。

そして、私が大学に入る前から楽しみにしていたのがサークル活動です。中学や高校の部活とは違って、気軽に活動するのが魅力です。私もいくつか回ってみたり新歓に参加してみたりしました。先輩達は口々に「一年のうちはいろんなサークルに入った方がいいよ。友達作りにもなるから。」と言っていたので、その助言通り私もいくつか入る予定です。ただ、私は自宅生なので飲み会などで盛り上がってきたところで、最終の電車に間に合うように帰らなければいけないので

少し辛いです。

次に授業についてですが、私にとっては授業を決めるまでが大変でした。“履修案内”や“シラバス”をみて、とりたい科目の教室に行けばその授業がとれると思っていたのに教養科目で選択したものの半分以上が定員オーバーでした。そしてすぐに抽選です。はずれた人の名前が呼ばれていく時の緊張感はすさまじいものでした。私も1教科もれてしまって次を探すのに走り回りました。登録が終わった今は、ひたすら講義に出る毎日です。できれば早く教養科目を終えて専門科目をその分やりたいです。それから、早くコンピュータの使い方を覚えて大学で利用したいなあと思っています。大学は思っていたよりもずっときれいだし、特に人文C棟は新しく設備も抜群で、とても過ごし易いです。最近ではお昼の生協や学食の混雑ぶりにも慣れました。そんな少々慣れ始めた今だからこそ、緊張感をもって何事にも頑張りたいと思います。

服部 優子（農学部 1年）

このような感じ方は少し変かもしれませんが、気が付けば五月で、身の周りの緑は濃くなっていて、「そうだ、私は大学生になっていたんだ」と思うのです。

大学生活が始まり、しみじみと「大学生」をかみしめる瞬間は、「飲み会」という言葉が飛び交っていることなどを筆頭に様々あるのですが、私にとって一番の変化は何と言っても講義でした。今までとは大きく異なり、自分の好きな学問が学べるのです。私は農学部ですが、経済学、法学、歴史学、心理学と、農学とはおよそ関係のないような分野を学んでいます。高校の時のように、受験に必要なだからと、選んだのではないのです。私自身が学びたくて選んだのです。

毎日の講義は、真剣に聴かなくても大丈夫という側面を持っています。出席の確認をとらない授業ならばサボることも可能です。だけど、と私は考えました。もし、仮に私が経済学に興味を持ち、もっとよく知り

たいと思った時に、私は専門書などを読むと思います。しかし、専門書は分厚く（薄いのもありますが）難しい用語ばかりで、ちっとも楽しく読めません。そして最後には経済学そのものがつまらなく思ってしまうのです。その点、大学の講義は、専門書を執筆するような専門家（教授）方がその学問を分かりやすく、またおもしろく解説してくれるのです。そのような話を聴くと、今まで遠くにあったその分野が急に身近に感じたりします。つまり、大学の講義とは、「学問への案内窓口」のようなものなのです。それに、毎回講義を聴いて、知識が増えていくのは脳のシワが1本、また1本と増えていくようで、なんだか得した気分になります。（こんなことを考えているのは私だけでしょうか……）

大学4年間が終了した時に、農学だけしか知らない学生になっていないように、毎日真剣に講義を聴こうと思っています。

恒吉 雄三 (工学部Bコース 1年)

高専を卒業し社会人となり早いもので6年が経った。卒業する時は、もう学生生活も終わり、これからずっと社会人としての生活が始まると思っていた。

会社に入社して自分自身の勉強不足、学歴社会というものに直面し、初めて自分から勉強をするため大学へ行きたいと思い入学することを決めた。

高専時代は、“卒業さえすればいい”とされていて、テスト前だけ猛勉強し単位を落とすことなくインスタント勉強法でなんとか卒業することができた。

今、会社で仕事をしていて知識不足に痛感させられる。私の担当業務は、構造物の開発・強度設計をしている。開発・強度検討をする際は、有限要素法解析プログラムやパソコンを使い検討・評価を行っている。パソコンを使えば計算できるのだが、いざ簡易手計算をし結果の妥当性を確認しようとするとう算力不足・知識不足である為、容易に簡易モデルに置きかえるこ

とができない。よく上司が、“計算機が無い時代から飛行機は空を飛んでいるんだぞ!!”と言われる。

もう1つ、会社というのは実力主義で評価されているが、本音は未だに学歴社会であるような気がする。最終学歴が大きく左右される。高専卒と学部卒では当然のように違い、学部卒でも何処大学かで違ってくる。

入学し講義を聴いていると、学生時代には覚えていたはずの公式等すっかり忘れていたことが分かった。真剣に一から復習のつもりで授業に出席し、インスタント勉強法ではなく自分自身の身につけていきたいと思う。欲を言うなら学部卒に終わらず、もっともっと高いものを目指して行きたいと考えている。

向上心をもって頂き快く承諾してくれた会社の方々、茨城大学工学部の先生・事務の方々、私を一番支えてくれる妻に感謝するとともに、また十二分期待にこたえられるように妥協することなくこれからも精進して行きたいと思う。

Voice — 初めての試験、私のアドバイス —

神代 知亜紀 (教育学部 2年)

7月末の前期試験。考えれば考えるほど憂うつになり、夏休み前の胸躍る期待にまで暗く影を落とす大問題です。1年生のみなさんは、初めて臨む定期テストに少なからず不安を抱えていることでしょう。そこで定期テストについて私が学んだ知恵をここで少し紹介します。

前期試験を無事にクリアーするため、以下の3点をおさえましょう。①テスト形式を事前に調べておく②レポートはためない③自分の考えを持ち、納得させる文章を書く、ということです。まず始めに①について。授業によってテストの形式が異なり、レポートのみの場合や試験のみの場合など様々です。また、記述式か出題される中心的題材は何かなど、早めに知っておくと対策を立てやすいので、先輩に聞いたり、シラバスで調べたりして、事前に確認しておきましょう。次に②について。レポートには、事前に準備ができるのでよいものが書けるといいうメリットがあります。しかし

ためすぎると徹夜でレポートを書くという地獄の日々が待っているので注意しましょう。やるべきことはすぐに片付ける、やはりこれが鉄則ですね。最後に③についてです。大学のテストは高校までのものとはかなり異なります。高校までのテストは、いかに覚えているか、を試すものでしたが、大学のテストは、いかに考えているか、を試すものとも言えるでしょう。ですから、毎日の授業を大切に、授業で扱う問題を自分はどう受け止めるか、どう発展させるかなど、問題意識を常に持つことが大切です。考えを書くような問題には、はっきりした答えがないものも多いので、たとえまちがっていたとしても、自分の考えをきちんと書けるということが重要視されます。ここで大切なのが、自分を相手にどう理解させるかということです。大変難しいことですが、必ず武器になるので、在学中にマスターしたいものです。みなさんの健闘を祈ります。

樋口 岳彦 (理学部 2年)

1年生にとって今度の前期試験が大学に入って初めての試験となりますが、そんなに気負いすることはありません。しかし、通年の授業や教養の授業の単位はしっかりと取っておいてもらいたいと思います。1年生の今の時点では私がそうであったように、まだ自分がやりたいことや、進路をみつけない人が少なからずいると思います。2年生となった今は、自分の進みたい道が少しずつみえてきました。それにつながる授業に専念してがんばりたいのですが、1年生のときに通年や教養の授業の単位を取らなかったで、それらに追われるばかりで自分の勉強したい授業に専念することができません。それがとても残念です。まだ自分の目標や進路をみつけない人は早く見つけてほしいと思います。そうすればやる気もでると思います

し、ちょっとつまずいても上手く乗り越えていけると思います。もし、すぐにみつからなかったとしても単位さえ取っておけばいつでも余裕をもって探すことができると思います。

次に勉強の仕方ですが、自分の興味のない授業だけどうしても単位が必要な授業については、試験のための勉強だけすればいいと思います。その授業の先生の過去問を手に入れたり、自分なりにその授業の大略をまとめてみるといいでしょう。自分の興味があり、また興味がなくてもこの先必要だと感じた授業は試験のために勉強するのではなく、自分のための勉強をしてもらいたいと思います。知りたいことは自分で調べたり、教官や先輩たちに聞いてください。

最後に、1年生のみなさんががんばって前期試験にいい結果を出して、大学生活初めての夏休みを楽しんでください。

茂木 高志 (工学部 2年)

長く、苦しかった受験時代を経て、一年次学生の皆さんは心機一転新たな気持ちでキャンパスライフを満喫していることと思います。大学では、自由な時間が豊富にあるため、サークル活動やアルバイトに力を入れたり、趣味や娯楽を享受したり、或いは勉学にいそしんだり、皆さんそれぞれに時間の使い道というのは異なっていることでしょう。

さて、この半年間の締めくくりとして、いよいよ前期試験が始まろうとしています。試験の形式、評価の仕方は、各教官毎に大きく異なることはご承知かと思いますが。ぶっつけ本番のペーパーテストのみ、或いはレポートのみ、又それらを合わせたもの、テストの際のノート・プリント等の持ち込みの可・不可、出席を重視する教官など様々で、それらは教養・専門教育の特色の現れとも言えます。一年次の内は主として教養科目が多いため、自分の学びたい分野を学べないことに不満や疑問を抱かれる方も或いは居るかもしれません。けれども、多岐に渡る幅広い見方と、異なった考え方に触れることによって、自分を高め視野を広げるのが教養教育の目的ですから、興味がなくともきち

んと聴講することが望ましいと思います。そうすることで、試験への不安といったものは自ずと消えて行くことでしょう。

単位については、教養科目ならば、講義を聴いて人並みに学習をして試験に臨めば、さほど心配することなく修得できると思いますが、専門科目はそうはいきません。特に、工学部・農学部の人で、今迄講義をおろそかにしていた人は、友人や先輩に頼るなどして、二年次に「水戸通い」とならないように心して試験に臨んで下さい。

最後に、卒業する為には単位が必要となりますが、単位を修得するばかりが大学生活の全てではないので、後々悔いが残らないよう様々なことに積極的に挑戦して行きましょう。そして、自分は一体何をするために大学へきたのかをしっかりと見据え、学生として節度のある行動をとられることを皆さんに期待しています。ということで、夏休みはめいっぱい楽しみましょう！

教 養 教 育 古 今 東 西

私は昨年赴任した新米教員であるが、以前フランスのボルドー政治学院に留学していた経緯もあるので、ここでは、そこで見た大学生の姿を少し記してみたい。

フランスではバカロレアという高校卒業兼大学入学資格試験に合格すれば、基本的に自分の希望する国立大学に入学できる。18歳人口における大学進学率は日本よりもまだ低いが、最近では試験の敷居が下がり、進学志望者の6割程度が大学入学を果たしている。

学生数が増えたため、特に教養部ではマスプロ化と施設・条件の悪化が急速に進行している。しかし、教員側が求める教育レベルには妥協がないため、単位を取れない「落ちこぼれ」と落第者の大量発生（入学者の15%程度）が問題となっている。大学が上級生をアルバイトのティーチング・アシスタントとして雇い、履修の指導や授業の補習を行うなどのフォローを行っているほどである。

学生は授業に出るのみならず、過酷なレポート生活と試験勉強を日々強いられる。様々な科目の度重なる、相当な分量のレポートを出し終え、ようやく最終試験を受ける権利を得られるという場合も少なくない。試験についても、数時間にわたって缶詰で「書きまくる」のが常道である。とにかく舐めてかかっているのは、「落第→退学」コースは必至である。

これと比べると、一般に日本の大学生は勉学面では大変だとは言えないだろう。「大学審」あたりから「単位を取りにくくせよ」という声があがってくる所以である。しかし、事はそう単純ではない。それは「学ぶ」意欲を持って入学してきた学生の、その意欲にいかに応え、それをいかに発展させるかという我々教員に突きつけられた問題でもある。半期の授業で会う学生との関係は、一期一会に近いものがあるが、何とかして、彼らに何らかの「学ぶヒント」「生きるヒント」を与えたいものである。

佐川 泰弘 (社会科学科)

以前、ビデオに撮ったTV番組、「金曜フォーラム：知の創造と大学の未来像」（1997年12月5日、NHK教育TV）をもう一度見た。それは、京都大学100周年の記念シンポジウムを収録したものである。シンポジウムの中で、思わず聞き入ってしまった議論があった。ここでは、そのことについて述べてみたい。議論の始まりは、シンポジウムのコメンテーターである佐藤幸治氏が述べた「大学が担うもの」の内容であった。佐藤氏は、大学が担うものとして、「知ることの喜びを阻んではならないこと（もっと積極的に解釈すれば、知ることの喜びを育むことかもしれない）」と「生きる知恵を大事にすること」をあげた。一般論としてこの考えに異論を唱える人はいないだろう。しかし、シンポジストである森嶋通夫氏は、「大学進学率が約40%にまでなってしまった日本の状況で、知ることはいいことだというドグマは捨てなければならない」と言い切った。森嶋氏は、中国での経験をもとに、進学率5~6%の国で見られた大学生の知に対する熱意を、同様に、進学率40%の国の大学生の求めることに疑問を示した。残念ながら、シンポジウムの議論はこれ以上展開しなかった。

森嶋氏の問いかけは、大学進学率40%という社会状況が何を意味し、そのような社会での大学のあり方は何かを議論することの必要性を説くものであろう。この議論の中で聞いたかったことは、大学進学ということが、「知ることの喜び」や「生きる知恵」を求める心がすでに備わったと見るのか、それとも、それらをいかに育むかという一つ前の段階を考えるかということであった。私は、後者の見方で仕事をしたいと思っているし、それは教養教育に通じるものではないかと思っている。こう考えるに至って、ようやく本学の教養教育が目指すものを知りたくなってきた。この鈍さ、転任2年目ということでお許し願いたい。

太田 寛行 (資源生物科学科)

掲 示 板 コ ー ナ ー

前学期定期試験について

実施期間：7月21日(水)～27日(火)

試験期間以外に試験を実施する場合もあるので、試験関係の掲示には注意すること。

受験資格：総授業時間数の3分の2以上（健康・スポーツ科目については4分の3以上）出席していなければなりません。

受験上の注意

- ・受験の際は、学生証を机の右上に置いて下さい。学生証のない学生は受験できない場合もあります。
- ・答案用紙には、学部名、学科（課程）、学生番号、氏名を必ず明記して下さい。
- ・試験開始後20分以上遅刻した場合は受験することができません。
- ・試験開始後30分間は退席できません。
- ・試験中に監督者の指示、注意事項を守らない者は退席させることがあります。

不正行為の禁止：試験及び追試験で不正行為をした者及びこれを幫助した者は、その行為が発覚した時点で謹慎処分となり、学則に基づき懲戒処分を受けます。

追試験：受験資格を有する学生が定期試験を受験できない事情がある場合は、本人の願い出によりその事情が真にやむを得ない事情と認められた場合に限り、追試験を行うことがあります。

追試験願い出の手続き

- ・事前に追試験願に所定事項を記入署名し、受験することのできない事情を証明する書類を添付し、授業担当教官の承認を得てから、1年次は企画室教養教育係に、2年次以上は所属学部の学務係へ提出して下さい。
- ・事前に手続きを行うことが不可能な場合は、企画室教養教育係に連絡し、所定の手続きを行って下さい。この場合の追試験の提出は、当該学期試験期間の終了後1週間以内に行わなければなりません。

教養科目後学期予備登録について

6月25日(金)までに申告を済ませた学生諸君の結果は9月21日(火)に企画室教養教育係において発表しますので、後学期が始まる前に各自結果を確認するようにして下さい。

なお、選考の結果受講可能となった学生は、第1回目の授業に必ず出席し、担当教官に教養科目履修申告票を提出して下さい。第1回目の授業に欠席した場合は、受講の意志がないものとみなし権利放棄したものとしますので、注意して下さい。

つ ぶ や き

新入生のみなさん、キャンパスライフは充実していますか。入学してあつという間の3ヶ月、待ちに待った夏休みは目前です。しかし、その前に試験があることをお忘れなく。今号のVoiceに寄せられた先輩のアドバイスをよく聞いておくように……。

ところで皆さん、茨城大学では平成13年度へ向けて教養教育の改革が進められていることをご存知でしょうか。皆さんが「茨城大学に入学して本当によかった」といえるような教育体制を創っていくことが我々

の仕事です。「教養教育って何だろう？」皆さん、一緒に考えていきませんか。(S. N)

発行日 平成11年7月

発行者 茨城大学

大学教育研究開発センター

水戸市文京2-1-1

029(228)8416(企画室教養教育係)